2023年5月14日  川越教会

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　丸山　勉

私たちは宝の民

［ローマの信徒への手紙6章4～14節］

わたしたちはバプテスマ（洗礼）によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。もし、わたしたちがキリストと一体になってその死の姿にあやかるならば、その復活の姿にもあやかれるでしょう。わたしたちの古い自分がキリストと共に十字架につけられたのは、罪に支配された体が滅ぼされ、もはや罪の奴隷にならないためであると知っています。死んだ者は、罪から解放されています。わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることにもなると信じます。そして、死者の中から復活させられたキリストはもはや死ぬことがない、と知っています。死は、もはやキリストを支配しません。キリストが死なれたのは、ただ一度罪に対して死なれたのであり、生きておられるのは、神に対して生きておられるのです。このように、あなたがたも自分は罪に対して死んでいるが、キリスト・イエスに結ばれて、神に対して生きているのだと考えなさい。従って、あなたがたの死ぬべき体を罪に支配させて、体の欲望に従うようなことがあってはなりません。また、あなたがたの五体を不義のための道具として罪に任せてはなりません。かえって、自分自身を死者の中から生き返った者として神に献げ、また、五体を義のための道具として神に献げなさい。なぜなら、罪は、もはや、あなたがたを支配することはないからです。あなたがたは律法の下ではなく、恵みの下にいるのです。

[1] 「うなじこわき民」を愛する神

先ほど「主我を愛す」の讃美歌を歌いましたけれども、この讃美歌は単純ですが、本当に聖書の要約と言っても良いような、いい讃美歌だなと思います。聖書の要約と言うのは、それはもう「神様は私たちのことを本当に愛している」ということに尽きると思います。それを、聖書は色々な箇所で表現を変えながらメッセージとして語っています。今日の礼拝の「招きの聖句」として読んで頂いた箇所も、とても素晴らしい言葉だと思います。旧約聖書・申命記7章6節ですが、こういう言葉でした。―「あなたは、あなたの神、主の聖なる民である。主は地の面にいるすべての民の中からあなたを選び、ご自分の宝の民とされた。」私たちは神様にとって愛の対象、そして宝物なのだ、と言っているのですね。しかし、私たちはともすると「神様が私たちのことを愛して下さっている」と聞くと、「やっぱり私はどこか見所が、価値があるからね」と心のどこかで思ってしまい。「だから」神様は私を愛してくれているのだと思ってしまいやすいです。なぜなら人間の愛は、その対象者のことが好きになって、そして愛するということがまぁ普通だからなのかもしれませんが。けれども、神様の愛はそうではないのです。続く申命記の7章7節以下ではこのように記されています。―「主が心引かれてあなたたちを選ばれたのは、あなたたちが他のどの民よりも数が多かったからではない。あなたたちは他のどの民よりも貧弱であった。ただ、あなたに対する主の愛のゆえに、あなたたちの先祖に誓われた誓いを守られたゆえに、主は力ある御手をもってあなたたちを導き出し…」となっています。言い換えると、あなた方には何も良き所は見いだせない。けれども、ただわたしの愛のゆえに、あなたを愛する、そして既にそのことをわたしは約束し、誓ったので、それを変えることはできないのだと、神様の側の確固とした思いのゆえに、神様は私たちへの愛を貫いておられるのです。

なぜ今日、申命記を開いているかと言うと、木曜日の祈り会で今読んでいて、心に留まったからということもあります。先週は9章を読みましたが、ここでは私たちのことを「あなたがたは実にかたくなな民である」（9:13）と指摘しています。昔の訳ですと「うなじこわき民」です。強情ということですね。自分の世界、自分の趣味趣向や自分のやり方で固まってしまって、神様を信じていると言いながらも自己流の信仰になってしまう。こういう神様なら受け入れるけれども、こういう神様なら受け入れないという、神様からご覧になれば「おいおい…」と言われても仕方がない罪深い私たちだと思います。でも、神様は凄い方だと思います。一度契約を結んだら、あなたとあなたの子孫を祝福すると言ったら、どこまでもそれを私は守る、と言っておられるのです。

しかし神様はまた、罪人を愛するために葛藤もされています。神様は人間の高ぶりや不信仰を見たくはないのですから。申命記9章では、あのモーセの、神様への真剣な執り成しの祈りが記されています。―「主なる神よ、あなたが大いなる御業をもって救い出し、力強い御手をもってエジプトから導き出された、あなたの嗣業の民を滅ぼさないでください。あなたの僕、アブラハム、イサク、ヤコブを思い起こし、この民のかたくなさと逆らいと罪に御顔を向けないでください…彼らは、あなたが大いなる力と伸ばされた御腕をもって導き出されたあなたの嗣業の民です」（26～27、29節）。モーセはと言えば、彼は約束の地カナンに入る前に死んでしまうのです。でも彼は自分のことではなく、自分の民が約束の地に入っていくことのために祈って、そして、神様はその祈りを聞いて下さったのです。モーセ自身は死んでしまいますが、そのモーセにあやかって、モーセの祈りのゆえに、神様の約束は無効にされることなく、保たれたのです。そのような、一人の人の祈りが、とりなしが、イスラエルの民を救いました。それと同じように、いやそれ以上のことが、私たちが愛されるために起こったのです。

[2]　 「キリストと共に」

さて、本日の箇所、「ローマの信徒への手紙」6章は、バプテスマ式の時に必ず朗読されますし、聖書全体の中でも最も霊的な事柄を語っている言葉でしょう。―「わたしたちはバプテスマ（洗礼）によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。もし、わたしたちがキリストと一体になってその死の姿にあやかるならば、その復活の姿にもあやかれるでしょう。わたしたちの古い自分がキリストと共に十字架につけられたのは、罪に支配された体が滅ぼされ、もはや罪の奴隷にならないためであると知っています。死んだ者は、罪から解放されています。わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きることにもなると信じます。」（6：4～8）

まずここでパウロは、「わたしたちはバプテスマ（洗礼）によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました」と語っています。バプテスマとは、私たちの「葬り」と「死」なのだと言っています。私はその言葉の真剣さ、深さということが全然わかっていない者だなぁ、と思います。「死」というのは、文字通り「死」なんです。もう過去の自分はそこに存在していないということではないでしょうか？でも、自分はゾンビのように過去の自分を引きずって生きてはいないか。文句ばかり言って生きていないか。そんなことを問われます。でもよく考えてみると、葬りというのは自分では出来ないのです。もちろん「死」というのも、神様が与えるものです。そこに厳粛さがあります。しかしまた、恵みもあるのではないでしょうか？「死」、それは、神様の領域に完全に入ることですし、あとは神様の手に任される訳です。任せていいのです。そしてパウロはバプテスマという「私の死」は、「キリストと一緒（一体）になる死」なんだと言っています。私の死とキリストの死が連帯していると言うのです。凄いことです。そして更にこのように言います。「その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。もし、わたしたちがキリストと一体になってその死の姿にあやかるならば、その復活の姿にもあやかれるでしょう。」

私たちには、旧約のモーセではなく、主イエス・キリストがいて下さるのです！主も、かつてのモーセのように執り成し祈って下さいました。「父よ、この杯を取り去りたまえ。しかし、わたしの思いではなく、あなたの御心のままに」と父なる神様から十字架を受け取られ、十字架の上では私たちの裁きを身代わりに負って下さいました。「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになるのですか」と。その主イエスにあやかって、私たちは、神様の瞳の中に置かれています。それだけではなく、やがて私たちが永遠の眠りにつき、呼び起こされる日がやってきた時、私たちは、主がお甦りになられたように私たちもその復活の姿にあやかるのだ、と言うのです。本当に凄いことです。今、私たちはその「望み」において救われています。その望みがあるから、試練も耐え忍び、また愛の労苦も喜んで引き受けられるのです。パウロはこの後で、だから、「あなたがたの五体を不義のための道具として罪に任せてはなりません。かえって自分自身を死者の中から生き返った者として神に献げ、また、五体を義のための道具として神に献げなさい。」（13節）と語っています。イエス様に捕らえられた人生は、「自己中心」「自分に拘ること」から自由にされるのですね。ただ「宝の民」とされている喜びと平安の中に生かされてゆく。主イエスが「共に」いて下さるのですから！「主と共に」死んで、「主と共に」葬られ、「主と共に」栄光に中に招かれるその幸いが私たちには与えられているのです。

私たちは、「バプテスマ」によって、一度お葬式を済ませているのです。そして水の中から引き上げられることによって、もう、上からの新しい命、復活の命をまとっているのです！私たちは、自分にこだわる「うなじかたき」人生から、既に解放されているのではないでしょうか？主が私たちを、今週も、光の中へと導いて下さいますように！お祈りいたします。

主イエス・キリストの父なる神様、今日の礼拝を感謝致します。あなたが、私たちの命と一つになって下さる、その驚くべき恵みをもう一度教えて戴き、感謝致します。　　　信仰を与えられていても、自分の思いが優先して、うなじこわき民になってしまう者です。何のために主が十字架で死に、また復活して下さったのか、そのことをいつも思い、バプテスマを受けている、既にあなたのものとされている大きな恵みに何度でも立ち返ることが出来ますように導いて下さい。救い主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。